The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	松山教授略歴
Author(s)	
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 7-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88731
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

松山教授略歷

先生名は直藏、字は子方、春城と號す、播陽明石當津村藩士松山七三氏の次男なり、明治五年正月七日生る、長男竹次郎氏幼にして歿せし爲先生家督を相續す

先生幼時嚴君より經書の素讀を授けられ、後鄕儒林芳信先生の門に入りて專ら漢學を學ぶ、明治十九年四月九日赤石小學校卒業後、俊才の故を以て抜擢せられ、明石郡第一番學區維林小學校補助員となり、同廿年四月一日明石郡王子小學校授業生心得を命ぜられ、仝年四月二十一日維林簡易小學校授業生となり、二十一年三月二十七日職を辭す、

明治二十三年恩師林芳信先生の督勵により、法學研究の志を懷きて京都に出で、同年七月第三高等中學校に入學す、在學中病を獲て覺る所あり、志望を一變して遂に經書の研究に向へり、

二十七年七月第三高等中學校卒業後、東京帝國大學文科大學漢學科に入學し、島田篁村先生に師事し、傍ら嘉納治五郎先生の講道館に入りて柔道を學び、專ら心身を鍛治せらる、

二十八年五月八日嚴君の喪に遭ひ、竟に家を東京に移して自ら弟妹の敎養に從事す、

卅年七月大學を卒業す、同年十二月東京に於ける毛利侯の時習舍敎員、及び井上圓了博士設立の哲

學館講師を囑託せられ經書を講ず、

卅一年七月大學院に入學し、重野成齋、井上哲次郎兩先生の指導を受く、

卅二年四月東京高等師範學校附屬中學校講師を囑託せらる、卅三年四月之を辭す、

卅三年四月東京陸軍地方幼年學校教授を命ぜらる、同年十一月從七位に叙せらる、卅五年八月之を辭す、

卅五年八月廣島高等師範學校の創立せらるゝや、聘せられて同校教授となり、專ら支那文學支那哲學を講授す、三十五年十二月正七位、三十八年十月從六位、四十一年正六位勳六等に叙せらる、大正二年九月從五位に叙せらる、大正五年大阪に懷德堂の復興さるゝや、廣島高等師範學校教授の職を辭し、同年十二月聘せられて懷德堂教授となる、六年一月正五位に叙せらる、爾後一意專心大阪人士の爲に孔孟の道を講じ、大いに時弊の矯正に盡力せらる、

大正八年九月二十七日慈母幾江刀自逝去せらる、先生若くして嚴君を失はれ、爾來一意母堂に事へ至孝を以て稱せらる、喪に臨みて哭泣其哀を極めり、

爾來懷德堂に學を講ずること十有一年、昭和二年二月二十三日病を得て就床、其後養生効なく四月二十三日逝去せらる、享年五十有七歲、明石本立寺先塋の次に葬る、

先生曾て『北宋五子哲學』と題する學位請求論文を京都帝國大學文學部に提出されしが、終焉前に

至りて文學博士の學位記を授けられたり。

先生天資温厚篤實、身を持する恭儉にして終日惰容を見ず、其學は經學に長じ、特に宋學に於て其精微を究め、朱子を尊信すること尤も深し、遺稿若干冊あり、家に藏せり。先生子なし、姪堯君を養ひて子となす、今九州帝國大學法文學部に在りて、法律學を專攻す。